

室田一雄・杉原正顯：東京大学工学教程「線形代数 I」(丸善出版)
補足と訂正 (2019 年第 2 刷)

誤り等にお気づきの方は、室田 (murota アット tmu ドット ac ドット jp) までお知らせくだされば有難く存じます。

- 51 頁 定理 2.10 の証明の補足説明：

$$\det(A + BC) = \det \left[\begin{array}{c|c} A & -B \\ \hline C & I \end{array} \right] = (\det A) \cdot \det(I + CA^{-1}B)$$

の第 1 の等号は、定理 2.9(2) で $D = I$ として B を $-B$ に置き換えれば分かります。また、第 2 の等号は、定理 2.9(1) で $D = I$ として B を $-B$ に置き換えれば分かります。

- 106 頁 注意 5.3： 行列 A は正則行列と仮定しています。
- 107 頁 9 行目： クラメル \implies クラメール
- 170 頁 (6.112) の次の行： 方程式 (6.110) の解 \implies 方程式 (6.111) の解
- 172 頁 7 行目： 例 6.10 \implies 例 6.11
- 184 頁 3 行目： $\mathbf{x} = (\mathbf{y}^\top, z)^\top$ に対して \implies \mathbf{x} に対して
- 210 頁 定理 8.2 (1), (2)：
非零固有値の平方根 \implies 非零固有値の (正の) 平方根
- 212 頁 定理 8.5 (1), (2)：
非零固有値の平方根 \implies 非零固有値の (正の) 平方根
- 214 頁 定理 8.9：
右辺の最小値をとる j の範囲は、 $\max(1, k + 1 - \text{rank } B) \leq j \leq \min(k, \text{rank } A)$ である。
 \implies
右辺の最小値をとる j の範囲は $1 \leq j \leq k$ である。ただし、 $i > \text{rank } A$ に対して $\sigma_i(A) = 0$ 、 $i > \text{rank } B$ に対して $\sigma_i(B) = 0$ と約束する。
- 224 頁 例 9.10：
反対称行列 ($a_{ji} = -a_{ij}$ を満たす行列 $A = (a_{ij})$)
 \implies
反対称行列 ($a_{ji} = -a_{ij}$, $a_{ii} = 0$ を満たす行列 $A = (a_{ij})$)
- 281 頁 下から 2 行目：
 $\{S \mid S \text{ を含む } B \in \mathcal{B} \text{ が存在しない}\} \implies \{X \mid X \text{ を含む } B \in \mathcal{B} \text{ が存在しない}\}$

- 283 頁 [5] :
長谷川浩司 : 線型代数, 日本評論社, 2004.
 \implies
長谷川浩司 : 線型代数 [改訂版], 日本評論社, 2015.
- 286 頁 [65] :
J. G. Oxley: *Matroid Theory*, Oxford University Press, Oxford, 1992.
 \implies
J. G. Oxley: *Matroid Theory*, Oxford University Press, Oxford, 2nd ed., 2011.
- 289 頁 左, 下から 5 行目 : Cramer(クラメル) \implies Cramer(クラメール)
- 292 頁 :
行フルランク (row-full rank) \implies 行フルランク (full row rank)
- 292 頁 :
クラメルの公式 \implies クラメールの公式
- 295 頁
相関係数行列 (covariance coefficient matrix)
 \implies
相関係数行列 (correlation coefficient matrix)
- 299 頁 :
列フルランク (column-full rank) \implies 列フルランク (full column rank)

以上